

CIM技術検討会が報告書

大型工事で 活用が有効

報告書では、CIMの概念を「情報の受け渡しから共有」と位置付けている。CALS/ECで進めてきた情報の受け渡しを中心とする取り組みから、成熟するデータモデルを活用・変更し、情報共有により共同作業・並行作業の実現へと移行するよう提言した。

日本建設情報総合センター(JACCIC)の呼び掛けで発足した「CIM技術検討会」は、CIM(コンストラクション・インフォメーション・モデリング)の普及に向けた報告書の大筋を固めた。報告書では、今後のCIM推進に向けた実施計画となる「CIM推進計画(仮称)」を国が策定するよう提案。国土交通省のモデル事業に対しては、CIM活用の効果は大型工事より発揮されるとし、復興事業やデザインビルド、詳細設計付発注などに活用を広げるよう求めている。

CIMは、コンピュータ上に作成した3次元モデルの構造物に部材数量やコストなどを付加し、建設生産システム全体を効率化する取り組み。報告書では、CIMの概念を「情報の受け渡しから共有」と位置付けている。CALS/ECで進めてきた情報の受け渡しを中心とする取り組みから、成熟するデータモデルを活用・変更し、情報共有により共同作業・並行作業の実現へと移行するよう提言した。



中部

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中伊 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | ⑪ 建通 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工 | | |

平成25年 4月23日(朝・夕) P1

加えて、検証事例を拡大するため、総合評価方式や成績評定での加点などのインセンティブがあれば、産業界の投資対象としてCIMの優先順位が上がることを訴えた。基準類に選択肢を設けて柔軟な運用とするなど、制約

を緩和してCIMに取り組むハードルを低くすることも提言している。検討会は2013年度も活動を継続し、モデル事業のフォローアップなどを行う。